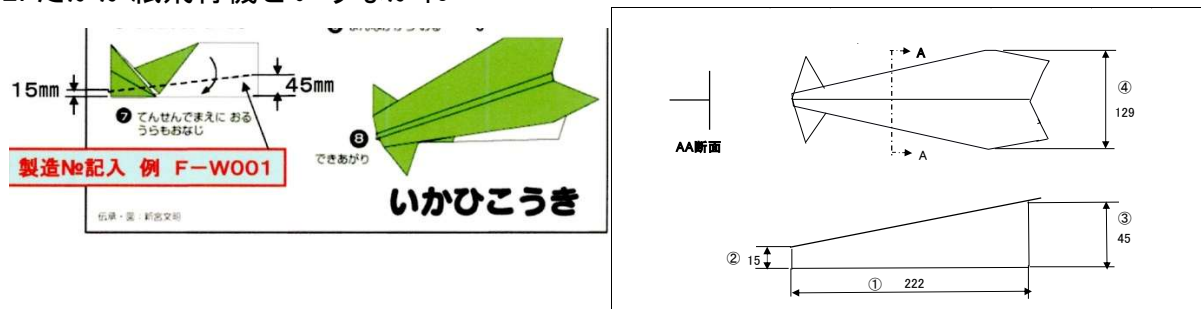


「若手・中堅社員に向けた生産管理の手法」セミナーの支援報告 神奈川県立産業技術短期大学校スキルアップセミナー

1. はじめに

在職者訓練である「若手・中堅社員に向けた生産管理の手法」セミナーが神奈川県立産業技術短期大学校で2025年6月24日、25日の2日間行われ、JESOとして元自動車メーカーでトヨタ生産方式等の指導に携われてきた後藤先生に指導をお願いし、谷口と坪内がアシストとして参加しました。企業から9名（うち女性1名）の参加者があり、1グループでの生産体制で30分70機の紙飛行機の生産を目指し、「生産管理とは何をどのようにすることなのか」日本的ものづくりを理解し、具体的な行動と思考を獲得することを目的に模擬生産の演習を行いました。

2. たかが紙飛行機というなかれ

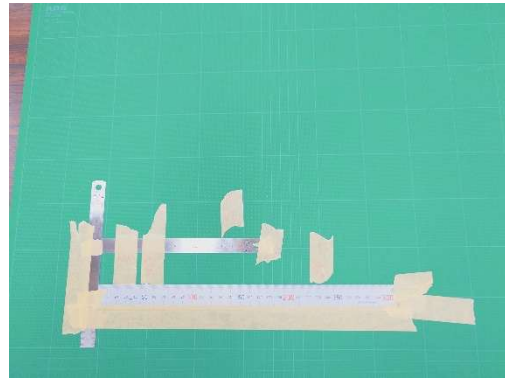
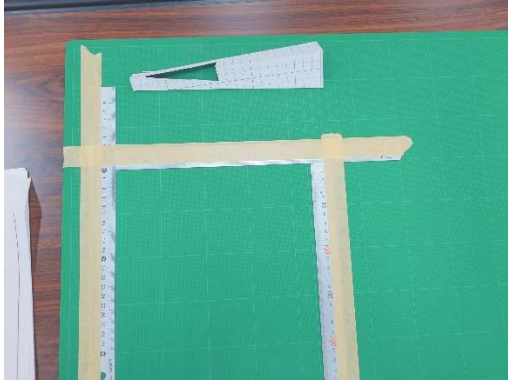


紙飛行機といっても、いろんな形状があり、当然工場生産ですから寸法精度もあります。今回「F型いかひこうき」の生産で、胴体の長さ、先端と尾翼の寸法と翼の寸法の4カ所チェックがあり、折り方がいい加減では、寸法は出ません。

まず「生産計画書」を作成するために、「標準時間」の算出（70機を30分で製作するには25秒で1機生産しなければならない）、「標準作業書」（作業分解表）を作成、「作業時間」を算出し工程編成を検討します。グループワークとしてリーダーを決め、改善活動（QCサークル）を行い、QCD（品質、コスト、納期と量）と4M（ひと、もの、設備、方法）をベースに創意工夫を重ね、治具や装置を製作し、トライアンドエラーで頭をひねっていました。「生産管理」という仕事の初心者には、新しい用語と進め方は新鮮だったと思いました。そして1日目の第1次模擬生産演習を開始、30分間の戦いが始まりました。全員が必死に作業と計測を続け、リーダーと監視サポート者が見守るという固唾を飲む緊張が続きました。結果は、52機の生産数、不良率19%、仕損じ率1.9%と厳しい結果となりました。全員、思ったように生産が進まず、苦い顔つきになり、問題点の洗い出し、対策の検討、工程変更と議論を重ねました。

3. さあ、再挑戦

2 日目、新たな治具や装置の準備、それぞれの役割の再認識、どのような現象の発生に対し、リーダーはどのように判断と行動するかと詳細に確認しました。第2次模擬演習を目指し、治具の開発で工程編成を1人削減、製造工程4人と検査2人、サポート2人、リーダー1人の体制になりました。



図上 治具と装置、図下 演習中の進行状況

第2次模擬生産演習の開始。滑り出しは順調に見えましたが、検査から不良品の多発の現象報告。リーダーとサポート役の協議、問題箇所から治具の不良の発見、作業を丁寧に行う指示を出す。緊張の時間が続き、ようやくタイムアウト、そして結果は如何に。生産数 56、不良率 32%と仕損じ率 1.7%という結果になりました。改善を図り、工程も1減し、スピードアップが図られたが治具の耐久性が悪く、不良品を多発してしまい、受講者も現象を厳しくとらえ、「生産管理とは難しい」を実感して肌身を感じたようでした。最後の発表時に、後藤先生から「三現主義（現場、現物、現実）を大事にし、壊れた治具や不良品はすぐに片付けるのではなく、残してしっかり確認することが大切」とのコメントが印象的でした。

